

# クイックスタートガイド



# MAXQDA 2022

クイックスタートガイド

日本語

サポート・販売:

VERBI ソフトウエア・コンサルティング・ソーシャルリサーチ GmbH、ベルリン、ドイツ

http://www.maxqda.com/lang/jp

著作権法に違反しない範囲での個人的学習や研究、評論やレビュー等を除き、本資料のどの部分も、書面による許可なしに複製することはいかなる形でも禁じられています。

MAXQDA は VERBI Software. Consult. Sozialforschung. GmbH, Berlin/Germany の登録商標です。Mac は米国等の Apple Computer, Inc.の登録商標です。Microsoft Windows、Word、Excel および PowerPoint は、米国等の Microsoft Corporation の登録商標です。SPSS は米国等の IBM Corporation の登録商標です。Stata は米国等の Stata Corp LLC の登録商標です。その他、米国等の商標・登録商標は、各所有者にその権利が帰属します。

© VERBI Software. Consult. Sozialforschung. GmbH, Berlin 2021

# 目次

はじめに	6
MAXQDA ユーザインターフェース	8
プログラムの起動	8
ユーザインターフェース	10
データの保存と保存場所に関する注意	12
重要なキーワード	13
データをインポートして検討する	15
データをインポートする	15
データを検討する	16
データを検索する	20
色彩コーディングとメモ	21
データをコーディングする	23
データのセグメントをコーディングする	23
データを分析する	27
文書をアクティブ化する	27

特定のコードでコーディングされた箇所(コード付セグメント)を呼び出す	29
図解ツールを活用する	31
混合研究法による分析	33
文書変数を定義する	33
変数値を入力する	34
コードの頻度を変数に変換する	36
分析における文書変数	37
おわりに	38
MQIC – MAXQDA International Conference	39
参考文献	40

6 はじめに

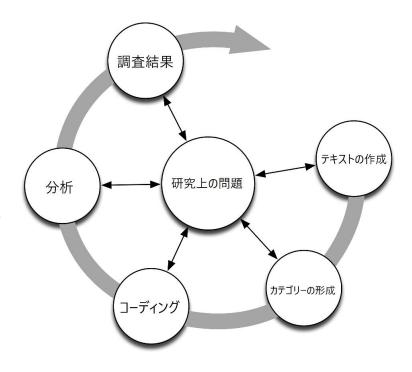
#### はじめに

MAXQDA クイックスタートガイドへようこそ! 本ガイドは、初めて MAXQDA を使って分析を行う方を対象としています。簡潔な説明をコンセプトとしていますので、社会調査や分析の多様な方法については、末尾の

「参考文献」をご覧ください。

質的研究には無数の方法がありますが、その多くはMAXQDAで効率化することができます。なぜなら、各種方法には右図のような共通の構造があるからです。

質的分析では複数・多数のカテゴリが用られます。カテゴリはデータから帰納的に生成されたり、既存理論・研究から演繹的に設定されたりします。カテゴリは、しばしばコードやキーワードとも呼ばれます。



カテゴリは、データを整理・分類・体系化します。分析的機能を持ち、主題の同定に留まらない、複雑な過程を構成します。なお、本ガイドと MAXQDA では、原則としてカテゴリを **コード** と呼びます。

コードを用いたデータ分析には時間が掛かりますが、ご心配には及びません。質的データ分析ソフト(QDA)が、分析の強力な補助ツールとなります。MAXQDA はコードを用いた分析に最適なツールですが、データの整理や語彙(単語やその組合せ)の探索のみに使用しても差し支えありません。

8 プログラムの起動

# MAXQDA ユーザインターフェース

#### プログラムの起動

MAXQDA を起動しましょう。この画面でユーザ名を入力できます。新規プロジェクトを作成するには、<新規のプロジェクト>から任意のファイル名を入力し、保存先を選択します。最適な保存場所は、PC のローカル・フォルダです。ネットワーク上のドライブや USB メモリへの保存は推奨されません。iCloud や Dropbox、Google Drive などの自動同期サービスへの保存も非推奨です。ファイルがオンライン上に保存されたまま、別の PC で作業が行われるとアクセスが競合するためです。



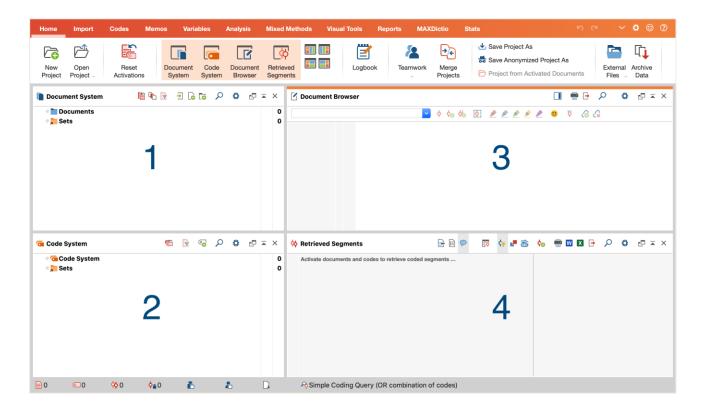
MAXQDA 2022 のプロジェクトファイルには、拡張子"mx22"が付きます。Windows のエクスプローラー や Mac の Finder ではファイルは"MAXQDA 2022 Project"として示されます。

Excel ではワークシート形式(.xlsx)で、Word ではテキスト形式(.docx)で作業を行うように、MAXQDA の場合は"プロジェクト"で作業を行います。プロジェクトには、MAXQDA にインポートして作成したコードやメモなど、ほぼ全ての作業状態が保存されます。

スタート画面右側には、MAXQDA オンラインマニュアル、MAXQDA ビデオチュートリアル、MAXQDA チームへのフィードバックなどのリンクがあります。

#### ユーザインターフェース

新規プロジェクトを開きましょう。MAXQDA の特長である 4 つのウィンドウが表れます(最初は、ほぼ空白です)。



ウィンドウ 1 は<文書システム>、2 は<コードシステム>、3 は<文書ブラウザ>、4 は<検索済セグメント>です。ウィンドウの配置変更も可能です(左右入替え、2 列 $\rightarrow$ 3 列など)。

ウィンドウの表示/非表示を切替 えるには、この4つのアイコンを それぞれクリック



上部のバー(ソフトウェアによっては「リボン」と呼ばれます)から、多くの機能にアクセスできます。 < ホーム > タブの各ウィンドウのボタンからは表示/非表示を切り替えられます。各ウィンドウを切り離したり(アンドック)、第二ディスプレイに移動したりできます。目的や環境に合わせて、画面配置を決めましょう。

ファイルは、全て<文書システム>ウィンドウにインポートされます。<コードシステム>では、コードを管理できます。<文書ブラウザ>では、データを表示・編集できます。<検索済セグメント>では、コーディングされた箇所の検索と表示ができます。

#### データの保存と保存場所に関する注意

MAXQDA は、インポート・コメント・定義するものなどのすべてを、"プロジェクトファイル"と呼ばれる単一ファイルで管理します。1プロジェクト = 1 ファイルが原則です。MAXQDA 2022 では、ファイル名に拡張子"mx22 が付きます(旧バージョンでは"mx20"や"mx18"となります)。ファイルの安全を期すために、以下の注意書きを必ずお読みください。

MAXQDA はインポートデータやユーザ作成データを基本的に全て自動保存します。そのため、保存ボタンがありません。しかしながら、念の為に<ホーム>→<プロジェクトを保存する>と操作し、外部記憶装置に毎日一定頻度でファイルをバックアップすることを推奨します。

"プロジェクトファイル"には、リサーチプロジェクト、学士論文、修士論文作成に必要なデータを全て保存することができます。ただし、多量の動画や音声データをインポートするとファイルが重くなる点にご注意ください。MAXQDAの標準設定では、一定(5MB)以上の画像とPDF 文書が埋め込められないようになっています。設定変更は可能ですが、サイズが大きすぎると、研究チーム内でデータ交換しあうのが困難になる場合があります。

#### 重要なキーワード

本ページでは、MAXQDA の基本キーワードについて説明します。

- プロジェクト MAXQDA のシステムファイル(=「作業単位」)そのものです。テキスト・PDF・画像などインポートされたデータ、および、作成されたコード・メモ・コメント・コーディングを含みます。
- 文書 具体的な分析対象たる個々の事例です。インタビュー・フォーカスグループ・ビデオ・ 音声・論文等、多様なデータを文書とみなすことができます。
- **コード** 最も重要な分析ツールです。インタビューの一部・写真切り抜き・ビデオクリップ等、 注目するべきと考えられる部分に割り当てられます。
- **コードシステム、コードツリー** 階層的に組織されるコードとサブコードの全体を指します。
- **コーディング** データ (文書) 中の選択されたセグメントに、コードを割り当てることをいいます。
- **コード付セグメント** コードが割り当てられた箇所を指します。
- **メモ** 覚え書きです。アイデア、仮定、分析過程で生じた疑問、データから見えてきた仮説等、 様々な場面でメモを書き留めましょう。
- **コメント** メモをより簡略化したものです。特定のコード付セグメントに対して、「矛盾」や「ここは重要! |など、思ったことを短文で書き込めます。

14 重要なキーワード

**一覧表** 様々な機能に備わっているオプションです。コード付セグメント・メモ・変数・リンク等を一覧表示できます。一覧表の基本原理はどれも同じです。一覧表から個々の要素へ素早くアクセスできるため、大量のデータの中で目的のデータを見失うのを防げます。

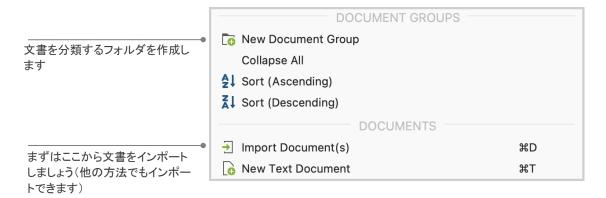
# データをインポートして検討する

#### データをインポートする

データのインポートには、いくつかの方法があります。まず、<文書システム>の構成をみてみましょう。



文書の文字もしくはその左のアイコンを右クリックし、メニューを開きます。下図は、その メニューの一部です。



16 データを検討する

<インポート>タブからデータ形式に応じたアイコンをクリックする操作でも、データをインポートすることができます(例えばトランスクリプトなど)。Windows エクスプローラーやmacOS Finder から<文書システム>にファイルをドラッグ&ドロップしてもインポートできます。<インポート>タブには、複数のオプションがあります。スプレッドシートやフォーカスグループのトランスクリプトなど、特定の種類のデータをインポートできます。テキストを直接入力することも可能です。

PC でフォルダを作成しファイルを管理するように、MAXQDA でも<文書グループ>を作成して文書を管理する事ができます。文書グループにデータをインポートするには、文書グループを右クリックし<文書をインポートする>を選択してください。ドラッグ&ドロップで文書を別の文書グループに移動することもできます。

#### データを検討する

質的データ分析では、データをよく理解することが重要です。 < 文書システム > にインポートした文書をダブルクリックし、文書を開きましょう。下図の例は、インタビュー書き起こしの一部です。



MAXQDA は、段落番号を自動的に付番します。チームでの意見交換(「段落 13 のメモ参照のこと!」など)や、段落全体のコーディングに便利です。データの出典を引用する際にも使えます。より細かい<行番号付きのテキストに変換する>機能もあります(テキストの上で右クリックしてメニューを開くと選択・設定できます)。

図の左欄には、3 色の縦線と黄色い付箋が表示されています。縦線はコードストライプと呼ばれ、コード「ポジティブ」や「家庭生活」や「父母」で当該箇所がコーディングされていることを示します。左欄の幅は狭いため、コード名が長いと一部のみしか表示されません。その場合、グレーのエリアをドラッグして幅を広げることができます。付箋のアイコンは、メモが付箋のように貼られていることを示します。

**メモとは?** メモとは自分なりの覚え書きです。付箋のように、テキスト、文書グループ、画像、オーディオやビデオクリップ、コード等に貼り付けできます。

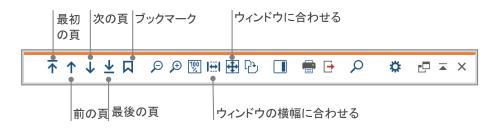
< 文書ブラウザ > で文書を初めて開くと、テキストの左の欄は空白になっています。まだコーディングやメモがないためです。まず、メモを作成しましょう。メモ欄をダブルクリックす

ると、ダイアログボックスが開きます。メモについては後ほど説明しますので、一旦ボックス を閉じてください。

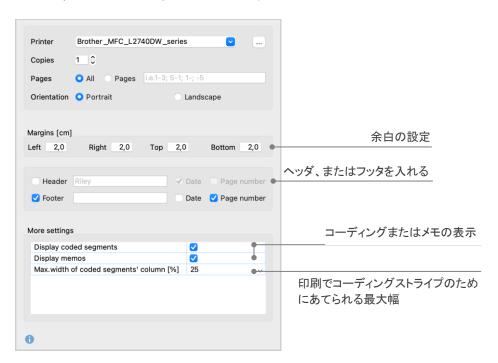
<文書ブラウザ>上部のツールバーには頻繁に利用される機能のアイコンがあります。



PDF ファイルをインポートしく文書ブラウザ>で開くと、ウィンドウのツールバーが変わります。DOC ファイルや RTF(リッチテキスト)ファイルとは異なり、ページ単位で PDF ファイルを前後にめくる操作などができます。



分析過程で(段落番号が付番された)テキストを印刷したり PDF 形式で保存したりする場合は、ツールバーの < 文書を印刷する > またはショートカットの Ctrl+P (Windows の場合)や cmd+P (MacOS の場合)を操作します。メニューからレイアウトの設定もできます。

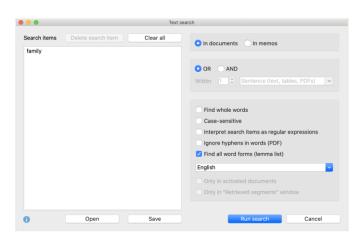


20 データを検索する

#### データを検索する

特に分析初期では、文書内の語彙検索が有効な場面があるでしょう。MAXQDAでは4つのすべてのウィンドウで検索が可能です。語彙検索を行うには、各ウィンドウのツールバーの虫眼鏡アイコンをクリックして検索語を入力します。検索語の出現頻度が表示され、矢印ボタンで次の該当箇所へジャンプできます。

より広範囲で検索を行う場合は、<分析>タブの<語彙検索>を使用します。開いている文書だけではなく、複数の文書内を同時に検索できます。



例えば、この図のように検索語として「家族」を入力すると、すべての文書内で「家族」が検索されます。

ウィンドウを開くと検索語を入力できます。一語でも複数でも検索が可能です。Enter キーを押すと一語目の入力が終了し、次の検索文字列を追加できます。デフォルト設定は OR 検索になっており、いずれかの語がヒットすれば検索結果に表示されます。検索結果のアイテムをクリックすると、該当箇所が<文書ブラウザ>に表示されます。

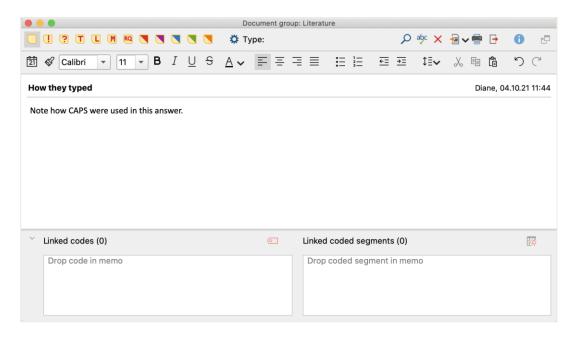
#### 色彩コーディングとメモ

テキストをハイライトしたり、アイデアを記したい場合に便利な機能をご紹介します。マーカーで線を引いたり、余白の狭い場所に付箋を貼ってメモを書き込むのと同様のことが MAXQDAでも可能です。 <文書ブラウザ>上部には、色彩コーディング機能として 5 色(赤、青、緑、黄、赤紫)のマーカーが備わっており、テキストをハイライトできます。



当該箇所をマウスで選択し、好きな色のアイコンをクリックすると色彩コーディングされます。ペンで本にマーキングするのと違い、MAXQDAでは色彩コーディングされた箇所を簡単に見つけられます。コーディング箇所の検索方法は、後述の「データを分析する」で紹介します。色彩コーディングは、本格的なコーディング作業を行う前の準備としても活用できます。

<メモ>機能も便利です。<文書内のメモ>から、文書のどこにでもメモを添付できます。 文書中の任意の箇所を選択して右クリックし、メニューから新規メモを作成できます。アイデアを自由に書き留めましょう。



メモにはタイトルを付けることができます。アイコンを設定し、コードにリンクすることもできます。

メモは、後から簡単に探して開くことができます。<メモ>タブに検索機能があります。検索結果は一覧表として確認することができ、メモの管理・編集・フィルタリングも可能です (例えば、指定した期間内に作成したメモのみを表示するなど)。

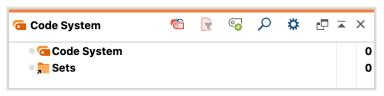
# データをコーディングする

#### データのセグメントをコーディングする

データのコーディングは、多くの場合、分析の要となります。コーディングとは、テキストや画像等のデータの一部をマウスで選択し(Word 等のソフトウェアで行うのとほぼ同じ動作です)、その箇所にコードを割り当てる作業です。タグ付けしたり、見出しを付けたりするような原理です。しかし、社会調査におけるコーディングには、それ以上の意味があります。

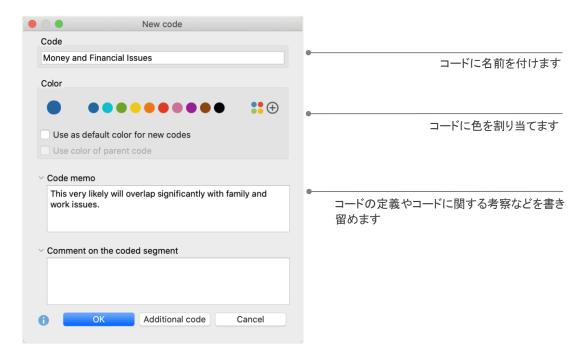
では、コードとは何でしょう。コードというと、スパイの暗号機・解読機、あるいはモールス符号のように、明確に定義されたコードが連想されるかもしれません。しかし、ここで言うコードとは、これらとは少し異なっています。質的研究におけるコードは、テキストや画像中の現象を名付けるラベル以上の役割を持ちます。技術的には、MAXQDA におけるコードとは、最長63文字からなる文字列です。単語も文章も入力できますし、暗号めいた"CR128"や"LH454"といった文字列も使えます。社会調査の研究プロセスでは、コードは様々な意味や機能を持ちます。例えば事実に関するコード、テーマによるコード、理論的なコードなどの区別があります(Rädiker & Kuckartz 2019; Richards 2014)。特定のコードがその研究プロジェクトで末梢的なものなのか、あるいは重要な役割を果たすカテゴリーなのかを、コードの字面のみから判断することはできません。文脈やフレーミングの仕方によって、その意味が変わるからです。

コードの作成は簡単です。<コードシステム>ウィンドウで最初の行にマウスを重ねると、緑色のプラス記号のアイコンが表示されます。このアイコンをクリックすると、新規コードを作成できます。



新規コードを追加するには、緑色のプラス記号を クリックします。虫眼鏡をクリックすると、特定の コードを検索できます。

下記は、新規のコードを定義するダイアログボックスです。



次の手順でコードを文書のセグメントに割り当てます。まず、任意の箇所を選択します(段落番号をクリックすると段落全体が選択されます)。そして、そのテキストセグメントを、任意の

コードにドラッグ&ドロップします。反対に、選択したセグメントにコードをドラッグ&ドロップしても問題ありません。コーディングが完了したら、<コードシステム>のコード右の"0" の表示が "1"に変わります。これは、コーディングされた箇所の数を表します。<文書システム>の文書の右には、それぞれの文書におけるコーディングの数が表示されます。

MAXQDA では、他の方法でもコーディングを行えます。文書内の選択した箇所を右クリックし、メニューからコーディングができます。また、〈文書ブラウザ〉上部にあるツールバーの 〈コード〉アイコンからもコーディングできます。ツールバーは下図のような構成になっています。



左端のウィンドウには、最近使われたコードが表示されます。その右の赤いアイコンをク リックすると、選択されたテキストセグメントに表示されているコードが割り当てられます。 その他のアイコンもご活用ください。例えば<コーディングの取り消し>アイコンで、最近 実行されたコーディング一覧を表示して任意のコーディングを取り消せます。

<文書ブラウザ>のコンテキストメニューにも、コーディングのオプションがあります。テキストのセグメントを選択し、右クリックするとオプションが表示されます。



データを分析する 27

### データを分析する

#### 文書をアクティブ化する

語彙検索の<アクティブ化された文書のみ>という項目を見て、どのような機能なのか疑問に思われた方もいらっしゃるかと思います。<アクティブ化>は、MAXQDAの中心的機能の一つです。特定の文書やコードのみを、作業の対象に指定することができます。アクティブ化はとてもシンプルな機能で、次のように操作します。各文書や文書グループを右クリックすると表示されるメニューの<アクティブ化する>を選択します。または、文書やフォルダ名の左にある、丸いグレーのアイコンをクリックします。





アクティブ化されると、文書・文書グループ名が赤くなり、横のアイコンが赤い矢印になります。MAXQDA インターフェースの最下部にあるバーの左端には、アクティブ化された文書数が表示されます。語彙検索の検索対象を特定の文書に限定する場合は、当該の文書をアクティブ化し、語彙検索のオプションで<アクティブ化された文書のみ>を選択します。

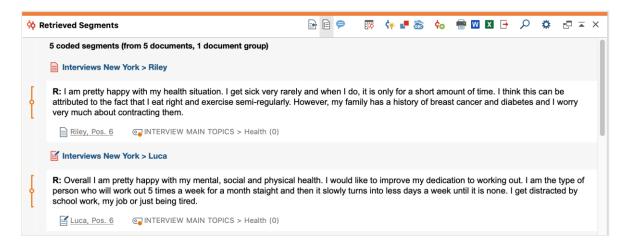


アクティブ化の解除も簡単です。 < 文書システム > ツールバーの左端にある < アクティブ 化を元に戻す > アイコンをクリックします。または、文書や文書グループの左横の赤い矢印ア イコンをクリックします。 データを分析する 29

#### 特定のコードでコーディングされた箇所(コード付セグメント)を呼び出す

機械的なコーディングが分析の全てではありません。コーディングと並行して、その経過を検討する必要もあるでしょう。このような場合に、コーディング箇所(コード付セグメント)をまとめて表示することができます。例えば、インタビューであるテーマについてどのような発言があり、誰がその発言をしているのかを確認したいと想定します。<検索(retrieval)>もしくは<コーディング・クエリ>が非常に便利です。<語彙検索>と同じく、アクティブ化を使います。

まず、<コーディング・クエリ>に含めたい文書とコードをアクティブ化します。コードも文書と同様の操作でアクティブ化できます(コードを右クリックし<アクティブ化>を選択、またはコード名の左横のアイコンをクリック)。検索結果は、第 4 のウィンドウ<検索済セグメント>に出典と共に表示されます。下図の例では、文書グループ"インタビュー - ニューヨーク"の"ジョージ"が元のデータです。



出典には、当該セグメントの元になる文書を示すだけではなく、元のテキストにジャンプする機能があります。出典をクリックすると<文書ブラウザ>に当該テキストが読み込まれ、元の文脈を参照することができます。

データを分析する 31

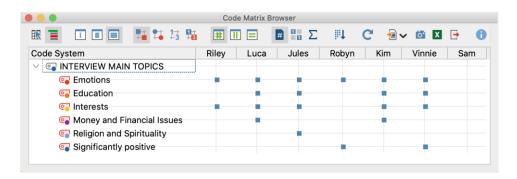
#### 図解ツールを活用する

MAXQDA は、分析過程や結果を様々な方法で視覚化できます。例えば、コードや文書に色を当てデータを視覚的に整理したり、色に即した特別な意味をもたせたりすることができます。また、MAXQDA は絵文字コードを初めて導入した質的データ分析ソフトです。言語障壁のある国際プロジェクトなどでは、絵文字によるコーディングが有効です。

データ間の関連を明確化するツールもあります。主に利用される図解ツールは、<コードマトリックス・ブラウザ>です。<図解ツール>タブから開くことができます。



下図に、<コードマトリックス・ブラウザ>を例示します。



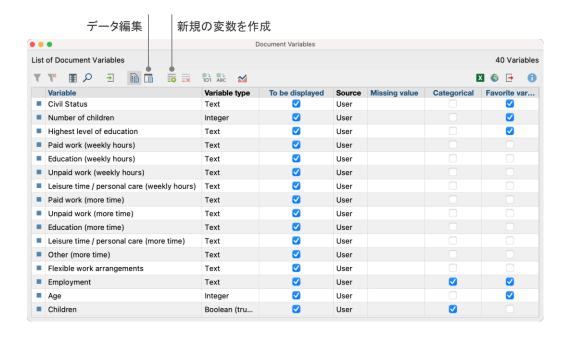
各列は、各文書を示します。この例は、ある研究プロジェクトの生活満足度に関するインタビューデータです。「人」にまつわるコードとサブコードがアクティブ化されて、表示されてい

ます。この例では、コード「祖父母」についてはインタビュー対象者のうち 2 名が、「父母」については 5 名が、「兄弟姉妹」「パートナー」については 1 名が言及していることが分かります。

# 混合研究法による分析

#### 文書変数を定義する

MAXQDA の特長のひとつに、混合研究法のための機能があります。 < 文書システム > の文書ごとに、様々な属性(統計でいう変数)を管理できます。例えば、個人データや背景情報を変数/変数値として記録し、混合研究法に活かすことができます。変数を管理するには、 < 変数 > タブから < 文書変数の一覧表 > を開きます(下図を参照)。



34 変数値を入力する

上図のように、いくつかの変数が既に定義されています。これらはシステム変数と呼ばれ、MAXQDAによって値が自動的に定義されるため、変更はできません。<新規の変数>アイコンをクリックすると、新しい変数を定義できます。一般的な変数には「テキスト」タイプ(変数を「職業」とし、変数値を「教師」や「学生」とするなど)や、「整数」タイプ(変数を「子供の数」とし、変数値を人数にするなど)があります。新規変数の定義は、いつでも可能です。

#### 変数値を入力する

<文書変数>の値を入力するには、<文書変数の一覧表>のツールバーの<データ編集>を操作します。



混合研究法による分析 35

文書変数の一覧は、Excel や SPSS 形式にエクスポートができます。エクスポート機能を使う ことで、SPSS や Stata のような統計ソフトにデータを移行し、統計分析を行うことができます。

#### コードの頻度を変数に変換する

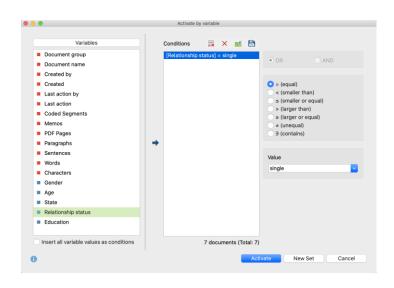
特定のコードが各文書に割り当てられている頻度を、変数に変換することができます。コード名が変数名、コードの頻度が変数値になります。目的のコードを右クリックし、 <文書変数に変換する>を選択してみましょう。下図の例では、コード「ポジティブ」を文書変数に変換しています。



#### 分析における文書変数

量的データと質的データは、様々な形で結合できます。最も簡単な方法は、文書変数の値を 基準にして〈コーディング・クエリ〉を用いることです。この操作によって、社会統計的特徴 の比較ができます(「50 歳以上の独身のグループが X をどう語っているか」や、「パートナーの いるグループはどう発言しているか」など)。〈混合研究法〉タブの〈文書変数によりアクティブ化する〉から実行できます。

ダイアログボックスの左の欄で変数を選び(下図の例では「年齢」)、横の矢印をクリック し、適用する変数値を右の欄で定めます(例では"> (大なり) 20")。 < アクティブ化する > をク リックすると論理条件が適用され、21 歳以上の対象者が文書システム中でアクティブ化されま す。



38 おわりに

### おわりに

本ガイドでは、MAXQDA の主な特徴をご紹介しました。MAXQDA には、他にも下記のような様々な機能や使い方があります。このガイドが、皆様のお役に立てることを願っています。

- ❖ 文献レビューの作成
- ❖ 音声・動画ファイルの文字起こし
- ❖ Twitter や YouTube データのインポートと分析
- ❖ フォーカスグループの分析
- ❖ データの視覚化
- ❖ MAXDictio を用いた量的テキスト分析
- ❖ レポートや記述統計表の生成

ウェブサイト www.maxqda.com では MAXQDA の下記のような数々の情報を閲覧できます。

- ❖ 無料のオンラインセミナー
- ❖ オンラインマニュアル
- ❖ ビデオチュートリアル
- ❖ 開催予定のワークショップ
- **❖** MAXQDA トレーナーのデータベース
- ❖ 研究ブログ、ユーザフォーラム など

#### **MQIC** – **MAXQDA** International Conference

ドイツのベルリンで毎年開催される MAXQDA International Conference には、世界各国のユーザが参加します。このカンファレンスでは、MAXQDA や混合研究法に関する充実したプログラムが組まれます。世界のユーザや MAXQDA 開発チームと交流する、またとない機会となっております。是非ご参加をご検討ください。詳細は以下のページをご覧ください。

www.mqic-berlin.com

40 おわりに

### 参考文献

Charmaz, Kathy (2014). *Constructing Grounded Theory.* 2nd ed., San Francisco: SAGE Publications.

- Corbin, Juliet; Strauss, Anselm (2015). Basics of Qualitative Research. Techniques and Procedures for Developing Grounded Theory. 4th ed., San Francisco: SAGE Publications.
- Gizzi, Michael C.; Rädiker, Stefan (Eds., 2021). The Practice of Qualitative Data Analysis. Research Examples Using MAXQDA. MAXQDA Press. https://doi.org/10.36192/978-3-948768058
- Kuckartz, Udo; Rädiker, Stefan (2019). *Analyzing qualitative data with MAXQDA: Text, audio, video*. Heidelberg: Springer. http://link.springer.com/10.1007/978-3-030-15671-8
- Kuckartz, Udo (2014). *Qualitative Text Analysis. A Guide to Methods, Practice and Using Software.* London: SAGE.
- Rädiker, Stefan; Kuckartz, Udo (2020). *Focused Analysis of Qualitative Interviews with MAXQDA. Step by Step.* MAXQDA Press. https://doi.org/10.36192/978-3-948768072
- Richards, Lyn (2015). Handling Qualitative Data. A Practical Guide. 3rd ed., London: SAGE.
- Woolf, Nicholas H.; Silver, Christina (2018). *Qualitative Analysis Using MAXQDA: The Five-level QDA Method.* Routledge

# 14日間の体験版を ダウンロードいただけます maxqda.com/demo

- MAXQDA
- © @MAXQDA
- @VerbiSoftware

